

ASA 伝言板

* 千葉市都市緑化植物園からのお知らせ

【場所】〒260-0808 千葉市中央区星久喜町 278
 【電話】043-264-9559 【FAX】043-265-6088
 【開園時間】9:00～17:00 【入園】無料
 【休園日】月曜日(祝日の場合は開園、翌平日休園日)
 【駐車場】無料(普通車 40台)
 【交通アクセス】・JR 千葉駅東口 12 番のり場、矢作経由蘇我駅
 東口行き「北星久喜」下車 徒歩 5 分
 ・JR 蘇我駅東口 2 番のり場、矢作経由千葉駅
 行き「緑化植物園入口」下車 徒歩 5 分

◆ 講座参加者募集

① 多肉の寄せ植え教室 多肉を数種詰め合わせした寄せ植えをつくり、おしゃに飾りましょう。(実習)
 【日時】9月5日(土) 13:30～15:30
 【講師】鈴木康博 (みどりの相談員)
 【定員】15名 【参加費】1700円

② 苔玉教室 初めての方も安心! コケ玉教室。コケ玉をつくり管理方法も学びます。(実習)
 【日時】9月26日(土) 13:30～15:30
 【講師】鈴木康博 (みどりの相談員)
 【定員】15名 【参加費】2500円

* 申込方法 事前申し込み、電話又は直接事務所まで
 受付開始 ①7月7日(火) 9:00～
 ②7月14日(火) 9:00～
 定員になり次第、受付終了となります。

◆ 園内ガイドツアー みどりの協力隊「リープス」による、園内の見どころや植物に関するお話が聞けます。リープスさんと一緒に、園内を楽しく散策しましょう。
 【日時】7月18日(土) 13:30～15:30 (1時間程度)
 * 予約不要、みどりの相談所前へお集まりください。
 詳細はホームページをご覧ください。
 URL <https://toshiryokka.jp/>

* 青葉の森公園管理事務所からのお知らせ

◆ フィールド教室

「愛犬との暮らし方教室(犬のしつけ教室・屋外レッスン)」
 6月21日(日) 10:00～12:00
 20頭(要予約) 参加費: 2000円/1頭
 ※ 7～9月はお休み、
 次回開催は10/18(日)

◆ 緑の教室(予約制)

7月1日(水) 9:30～11:30
 「アジサイの上手な育て方～剪定で適度なサイズに」
 参加費: 300円 定員 20名
 7月11日(土) 9:30～11:30
 「園芸用刃物(鎌・ハサミ)の研ぎ方講習会」
 参加費: 300円 定員 10名

* 開催日の1か月前から電話・窓口にて申込受付
 電話: 043-208-1500 (青葉の森公園 管理事務所)

◆ 工作教室 「木の葉の工作～パパの顔をつくろう」

日時: 6月21日(日) ① 10:00～11:30
 定員: 各回 16名 ② 12:00～13:00
 (年少～大人) ③ 13:30～14:30
 参加費: 600円

「キラキラな海のなかまのウインドチャイム」
 日時: 6月18日(木) 13:30～14:30
 定員: 16名(年中～小学3年生) 参加費: 600円
 * 開催日の1か月前から電話・窓口にて申込受付
 電話: 043-208-1500 (青葉の森公園 つくしんぼの家)

～ヒノエウマ 疾走コラム～



新聞深読み
 「記事の余白」
 Vol.2



佐々木 健

事件と報道

悲惨な事件が続いています。京都・南丹市の小学生殺人・死体遺棄事件、栃木県上三川町の3人死傷事件など、連日ニュースや情報番組で報じられています。南丹市の事件は、テレビメディア、とりわけ情報番組を中心に連日取り上げられ、元刑事などが解説していました。こうした状況について、ジャーナリストの池上彰さんが養父の逮捕後問もなく、「もう報じる必要はないのではないか」と問題提起しました。私自身は35年の朝日新聞社生活の中で、24年余、事件を担当し、編集局の事件報道のルール作りについても携わってきました。その経験をもとに、事件報道について考えてみました。

はじめに、私は事件報道はしっかりと報じる必要があると考えます。事件の多くは動機や手口などが今の社会情勢を反映しています。特殊詐欺の手口は巧妙化し、インターネット・SNSを駆使し、犯行時の容疑者の年齢も低年齢化しています。知らぬ間に個人情報飛び交い、それを悪用する。そうした負の進化・深化をしっかりと報じることで世の中に警鐘を鳴らすことになるからです。情報弱者と言われる人を少しでも減らし、防犯のために手口や動機を速やかに伝えることが報道の役割だと確信しています。また、早い段階でしっかり情報を伝えることは、犯人が捕まっていない段階では、新たな情報提供につながる可能性も高くなります。警察の発表だけでなく、被害者や関係者、その地域取材し、どうしたら防げたのかを独自に取材する必要はあると考えます。

一方で、事件や事故の被害者にはご家族がいます。大切な家族を失ったり、大きな被害を受けたりしてショックを受けている中で、メディアの取材を受けるのは精神的にとってもつらい大変なことです。多くのメディアが被害者家族のところに訪れ、「取材をお願いします」というのは、取材する側にとっては「当然なこと」と思いがちですが、そこで欠けているのは「被害者やその家族に寄り添う」というメディア側のスタンスです。

メディアが取材対象のところに大挙押し寄せることを「メディアスクラム」といいます。自宅の前に記者やカメ

ラが待ち構えるという光景です。ご家族が外出することすらできない状況をメディアが作ってしまっています。被害者家族にとっては事件被害だけでなく、メディアによっても二次被害を受けることになります。こうした状況を防ぐため、各地区にある報道責任者の会話し合いを持ち、1社が代表して取材依頼や取材をする、といったことを決めて、メディアスクラムを防ぐ取り組みをしています。私も千葉総局長時代は千葉県内のメディアの責任者が集まる会に所属し、こうしたことが起きた時を想定した協議をしていました。近年は警察が「被害者対策室」などを設け、被害者のご家族のコメントなどを受け取り、メディア側に出していただくことが増えました。これもメディアスクラムを防ぐ一つの方法なのかもしれません。

ひとつ、実例をお伝えします。広島で女児が男に殺された事件がありました。大切な娘を失ったご家族にメディアは取材を申し込みましたが、断られました。一方で、メディアはこの女児が通っていた幼稚園の関係者や友人などから女児の写真を手に入れて報じていました。当時、この事件を担当していた朝日新聞の女性記者は、被害者宅に陣取る他のメディアとは一線を画し、ポストに手紙を入れました。「落ち着きましたらお話をお聞かせください」という内容です。事件から半年近く経った時、女児の父親から「話を聞いてほしい」という連絡がこの女性記者にありました。自宅におじゃまして話を聞くと、「心の整理がつかないのに、連日自宅に押し寄せたメディアに対する恐怖」、さらに「どこから手に入れたのか、不鮮明な自分の娘の写真が出回ったこと」などを語りました。この取材の内容は半年を経て、大切な娘への思いだけでなく、父親が提供してくれた満面の笑みで写る女児の写真とともに掲載されました。「同じ被害者が出ないためにも取材を受けた。ちゃんとした娘の写真を使ってほしい」という思いもあった」とのことです。

メディアの使命は速報性であることは間違いありません。ただ、それを求めるあまり、「被害者という立場に寄り添う」ことを脇に追いやっていないだろうか。「あれだけ騒いだ事件なのに、その後は潮が引いたような状況」というのはよくある話です。詳細をお伝えする役割には、別の責任も伴うということは、新聞もテレビも、さらにネットメディアも同じなのだと改めて感じました。

今後も折に触れて、事件やメディアについては触れていきたいと思っています。

(佐々木 健 1966年の丙午生まれ。朝日新聞社で35年のうち24年余を事件担当記者として過ごす。千葉総局長を経て広報・ブランド担当補佐で同社を定年退職。千葉県在住)

朝日新聞をご購読の皆さまへ

大切なお知らせです

忙しい毎日の中で、「新聞を全部は読めない」、「気になる記事を見逃してしまう」と感じることはありませんか。「朝日まなびの情報局」は、朝日新聞をご購読中の皆さまに、新聞をもっと身近に、もっと活用していただくためのLINE公式アカウントです。

【朝日まなびの情報局の配信内容】

- 毎週5本、注目記事を配信
毎週、読んでおいていただきたいオススメ記事をお届けしています。
- 朝日小学生新聞の問題を毎週配信
ご家庭での会話や、お子さま・お孫さまの学びに役立ちます。
- スマホで手軽に情報をチェック
新聞の読みどころや学びにつながる情報を、LINEで受け取れます。
- ASAからのお知らせが届きます
プレゼント企画のお知らせやASAとの連絡ツールとしても活用できます。

新聞が、もっと読みやすく、もっと役立つ。

LINE公式アカウント「朝日まなびの情報局」友だち募集中!

【こんな方におすすめです】



下記QRコードをLINEで「朝日まなびの情報局」を

友だち追加するだけ!

今すぐ登録を!



ASA千葉中央

〒260-0018 千葉市中央区稲荷1-5-6
 TEL: 043-222-1201
 メール: forest@shirai-nis.com